

会 議 録

会議名称	第6期幸区区民会議 第9回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）
日 時	平成29年8月1日（火）18：30～20：00
会 場	幸区役所 4階第3会議室
出席者	<p>●区民会議委員（50音順）</p> <p>阿部稔子委員（副部会長）、伊藤善通委員、大野勝彦委員、佐野禎彦委員、高橋希委員、中原敏子委員、成川慎一委員（全体会議委員長）、松井節子委員（全体会議副委員長）</p> <p>●事務局</p> <p>幸区役所 田村副区長</p> <p>幸区役所まちづくり推進部企画課 岸課長、吉岡課長補佐、安藤職員、中村職員</p> <p>保健福祉センター地域ケア推進担当 野村課長補佐</p> <p>保健福祉センター保育所等・地域連携 古川課長補佐</p> <p>（株）社会空間研究所 中島氏、田上氏</p>
欠席者	神谷修委員（部会長）
傍聴者	なし
配布資料	<p>●資料1 「魅力発信でつなぐ まちの活性化部会」調査審議スケジュールイメージ</p> <p>●資料2 発信する魅力（子育て支援が充実したまち幸）について</p> <p>●資料3 発信していく幸区の魅力について</p> <p>●資料4 魅力発信に向けた今後の調査審議について</p> <p>●資料5 第6期幸区区民会議（第4回）における部会報告内容について（案）</p> <p>●参考資料1 「第6期幸区区民会議」スケジュールについて</p> <p>●参考資料2 第8回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）会議録</p> <p>●参考資料3 第6期幸区区民会議委員・参与名簿</p>
議 題	<p>（1）発信していく地域の魅力について</p> <p>（2）発信に向けた調査についての確認について</p> <p>（3）第4回区民会議報告内容等の検討について</p>

<p>決定事項</p>	<p>(1) 発信していく地域の魅力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2及び保健福祉センター職員の説明により、発信する魅力について確認し、検討を行った。 ・資料3により発信していく幸区の魅力について確認し、検討を行った。 ・発信していく幸区の魅力について、交通アクセス・利便性、地縁・地域コミュニティ、世代間交流、三大公園以外の公園について加筆修正を行うこととする。 ・タイトルや夢見ヶ崎公園（加瀬山）等についての表現を見直し修正することとする。 <p>(2) 魅力発信に向けた今後の調査審議について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料4により魅力発信に向けた今後の調査審議について確認・共有した。 ・区民祭の場で調査を行うことを決定した。 <p>(3) 第4回区民会議の報告内容等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料5により第4回区民会議における部会報告内容について確認・共有した。 ・報告者は佐野委員とすることとした。
<p>会議の内容 及び 主な発言</p>	<p>(1) 発信していく地域の魅力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事務局より資料2について説明した。 ●コンサルタントより資料3について説明した。 <p>○資料2及び保健福祉センター職員の説明により、発信する魅力について確認し、検討を行った。</p> <p>○資料3により発信していく幸区の魅力について確認し、検討を行った。</p> <p>○発信していく幸区の魅力について、交通アクセス・利便性、地縁・地域コミュニティ、世代間交流、三大公園以外の公園について加筆修正を行うこととする。</p> <p>○タイトルや夢見ヶ崎公園（加瀬山）等についての表現を修正することとする。</p> <p>＜主な意見＞</p> <p>【発信する魅力について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不足しているものに対して言及がなかったのでそのコメントが欲しい。 <p>また、地域住民の自発的な様々な取組についてはわかったが、それは幸区独自の事かという事が分からない。「独自の」という所は魅力発信では不可欠なポイントだと思うので、その説明が欲しい。</p> <p>(保健福祉センター職員) 不足しているものという所だが、地縁組織である民生委員や町内会が強いことの裏腹の結果だと思うが、現役ママを主体としたサークルの延長で、自助、互助の取組み、自助はサークル活動だが、互助の部分で、他の人達の面倒を見ていくというような取組まで発展できる、NPO法人や法人格を取ってやっていくような子育てサークルが圧倒的に不足</p>

している。多摩区などでは「ままとんきっず」と言って、NPO法人として保育から運営されているような力のある所があり、宮前区にもそのような組織がある。支援組織が弱い、頼れるところがない、行政も含めて弱いとなってくると、皆さん「自分たちで何とかしないと」、となり発展してくる。なので、区の子育て支援担当者のベクトルが、幸区だと町内会や民生委員とタッグを組んで取組を展開することが多いが、宮前区などではサークルなどと付き合いをしているという地域的な特徴がある。長らくサークルの支援をやっているが、なかなかそれが継続して定着しない。

また、地域特性が非常に多く、様相が異なっている。南加瀬エリアでは子どもは家族でみるもの、という意識が強いという話を聞く。日吉地区ではどんどんマンションが出来て、新しい小学校が作られる所がある一方で、なかなか子育て世代の人口が増えていかないような古市場のようなエリアもある。そのような地域特性によって様相が異なっていくなかで、オール幸区として何かできるかは悩ましい。

もう一点、幸区の独自性についてだが、自助互助の取組について、本来的にはこども未来局という子育て支援を紹介している局があって、そういう所が本来的には各区の取組状況について把握して、例えば子育てサロンが何区にいくつという事の統計や、赤ちゃん相談会をやっているが、こども未来局がそういう所を持っていないので、なかなか他区と比べてデータのどうかという部分については追えていない。

- ・コンサルタントが定量的に7区横並びにしたときに、ここが少ないここが多いと示せれば一目瞭然だと思いが、市としては、それは嫌だと思ふ。納得するには「幸区はここが断トツだ」、ここが抜けている、というのが分かればインパクトのある発信ができる。

(保健福祉センター職員) 各区で、幸区では「みんなで子育てフェアさいわい」として子育て世帯が集まってくるようなイベントをやっているが、支援団体がみんなで開催するイベントになっている。ちなみに麻生区は区民会議の提案に基づき開催している。行政が主導的にやっているところもあって、幸区は支援団体の皆が協力して12回、13回を数えていて、そういったところの伝統も特徴の一つだと思っている。中原などはもっと派手にやっているが、中原区は小杉でやっているのも人も集まるが、地域の人達がどれだけ、という部分では幸区の方が魅力的だと思っている。

(事務局) 学校に上がる前の世代に対する支援というのは、それなりに充実している部分があるが、小中学生に対する支援という所が課題になっており、幸区としては動物園があつたり、「創造のもり」のようなとがったことをやっているというのは幸区だけである。そういった学習ができる資源が身近にあり、小中学生向けの武器があるのが幸区の魅力に該当するのでは

ないか。

(社会空間研究所) 区の職員はずっと同じ区にいるわけではないので、他区の話聞くのも良いと思う。

(保健福祉センター職員) 過去に川崎区で同じ仕事をしていたが、川崎区は外国人が多く、外国人につながる支援がベースにあって、そういった取組が展開されている。それに比べると幸区は「東芝未来科学館」や「創造のもり」の「科学であそぶ幸せな一日」があるなど、支援の温かい部分と都市的な部分がいい具合に融合しているのではないかと思う。

- ・創造のもりの所に子どもの参加率、毎年延べ人数や、学校単位で参加しているなどはあるか。

(事務局) 「サイエンス CLUB」というイベントを地域振興課でやっていて、呼びかけをして科学と触れ合うような機会、それから「科学とあそぶ幸せな一日」という大きなイベントを毎年やっている。

- ・それらは定着しているか。

(事務局) 定着はしていて、抽選なので外れることもある。

- ・昔は多摩区の青少年科学館しかなかったが、幸区も力を入れられるような形になっている。

(事務局) 資源が身近にあるという事で、研究施設なので敷居が高かったが、その辺を身近な存在になってもらえるようにしている。

- ・子どもの野球部の加入率など、スポーツの充実度合いはどうなっているか。子どもに多彩な幸せ、科学ばかり言っていると科学が苦手な子どもは行くところがなくなってしまうし、選択が出来るようになってくるのか。

(保健福祉センター職員) そうだと思う。今までは例えば子供会、町内会が主催するような野球クラブなどがたくさんあったが、最近はサッカーや塾など、地域密着型ではない選択肢が広がった、なかなか統計的に区の立場で調べるのは難しい。

(副区長) 野球については区内に70町内会の中に30弱ぐらいのチームがあって、毎年春と夏に大会がある。チーム数は若干減っている傾向にはあるが、スポーツの多様化も行われていて違うスポーツにチャレンジしている方も多いので、そういった面では一生懸命やっているのだと思う。あとはレーカーニバルやサッカーのチームもあるし、野球については県大会でも勝てるようなチームなのでかなり充実している。先ほどの「科学とあそぶ幸せな一日」については毎年1,300人くらいが来る。各企業が自分たちの技術を使いながら教室を開いたりして、地域の子どもの参加してもらっている。

- ・話を聞いていると「どこかが優れている」、ではなく全体的に70点の平均でやっているという感じがする。特別出ているところが無いので目立たな

い。その代わり落ち込んだところもない。

(保健福祉センター職員) 地域の方が地域全体で支援をしようと思っている方が多いというのが圧倒的な魅力だと思う。子育て支援の事業の参加率が非常に高いというのは、子育て家庭が多いというのものもあるが、日吉おやこであそぼうランドでやる事業などは30組の定員が一杯になって、お断りすることもあるような状況である。非常に参加率が高いというのは、子育て支援に慣れている地域の親たち、そこに行けば楽しめるという事を知っている方が多いという事と、子育て家庭が多いという事もあり、充実している表れであると思う。

- ・色々な活動を行っているというのはよくわかる。幸区では市民活動コーナーを利用して約30の登録団体がどれも少人数でささやかに活動している。その中で「日吉のわっ」などは活発に活動をしているが、その場所に行かないと情報が入らないというのは欠点だと思う。今、マンションに住んでいるが、住民同士で話をしたときに、「野球をしたいがどうしたら良いか」、といった相談を受けたことがあったが、情報を知らないのだと思う。この先、発信の方法という次のステップの議論になると思う。今は子どもに3歳から習い事をさせようという親も多く、忙しい子どももどんどん増えてしまう。時間的に余裕がなくてやらせたいことを選択していないのか、やりたいが情報が無くて選択できないのか、それが難しい。それを踏まえていかに発信するかステップを進める必要がある。

また、他の区ではNPOの話聞くが、幸区ではあまりNPOでやっているという話を聞かない。ノウハウを持っていないのか、団体として力がないかわからないが、そこが一つ課題だと思う。NPOであればもっと人集めに努力すると思う。

【発信していく幸区の魅力について】

<資料3についてコンサルタントより説明>

■子育て支援が充実したまち幸

- ・子育て情報の発信としておこさまっぷの他に father'sbook も追加してほしい。

- ・訴えたいことは子育て環境、子育て支援、文化・商業の3つである。今回のタイトルは前回と変わっていないが、子育てが被っているので2つに見える。2本柱に見えてしまうので、3本柱にするならばタイトルの所は考えてほしい。環境が1、支援が2、文化商業が3なので、読み手が分かる様に、大きな流れがくずれないように見た目を整えてほしい。加筆修正で言うと、交通アクセスは大きなポイントだと思うので、文化商業の所に交通アクセス、利便性の高さが入る。川崎と新川崎は都心へとつなぐ大動

脈になっているので欠かせない。

環境の方は3大公園を冒頭にもってきて、それから個々の3つの公園を記述するべきだと思う。

子育て支援の所では、職員のレベル、質の高さというのがはっきり出し、行政の担当者も言っていたので、言いにくいが入れた方がよい。受け手側にはインパクトがある。

・ボランティアが充実とあるが、どうやって皆はボランティアに結びついているのか。どういった形でどこにいけば、という入口が分からない。例えば新生児の時の赤ちゃん検診の時に紹介してくれるとか、悩んだ時にはここが窓口、という具体的な場所、一旦ボランティアに縁づいてしまえばたくさんのサービスが受けられると思うが、はじめの一步がわからない。(社会空間研究所) イメージだが、よく他都市では「こんなことがあっていい街ですよ」というのを紹介して、後ろの方にこういう所にご相談ください、と紹介している。

・そこをもう一步親切にしてもらおうと良いのではないかと思う。

・民生委員の案では赤ちゃん訪問が最初の窓口という感じがしている。

そこでなにか相談が有れば色々なことへつなげていくことができるのかなと思う。

・前々回の区民会議で「はじめの一步」という冊子をつくった。今回はそれのお子様版のようなイメージか。

・良いところですよと謳うだけでなく、皆が教えてもらってよかったとならないと、そこの継ぎ目がないと意味がなくなってしまう。3ヶ月の乳幼児だけでなく、小学校の子が転校してきた時に、こういう所が色々ありますよ、という色々な人が入ってくる想定も入れたい。

・出生届を出したときに、どういう風に資料をもらったり説明を受けるのかという所が分からない。

(保健福祉センター職員) おこさまっぷは母子手帳を交付するときに渡している。おこさまっぷの前半戦は、妊娠したら、という事でおなかの中に子どもがいるときに渡しているので、出生届を配るときにはおこさまっぷは配っていない。ただ、母子手帳を渡すときにおこさまっぷの説明や、困ったときの連絡先などは説明している。

・踏み込んだ話で、乳児の時の医療が無料とか、お金がかからないような話を出せば良いのではないか。

(保健福祉センター職員) 直接的支援は川崎市もがんばってはいるが、やはり東京都の方が、ということがある。なので東京都から転居してきた方からは厳しいご意見を頂いている。小学校6年生までは医療費無料でやっている。

- ・医療費無料は区レベルでは難しく、市でやっている。

(社会空間研究所) 互助、地域で関わりの意識が高いというのは色々な区に関わっている職員が比較して、幸区は地縁、地域コミュニティが強いという所をもっと強調した方が良いかもしれない。

- ・一つ目の所に地縁の話を盛り込んだら良い。

(保健福祉センター職員) 例えばだが、ある程度年を取った方が地域貢献デビュー、子育て支援に関わるようなきっかけをそこで与えていただければいい。世代間交流もやっているの。

(社会空間研究所) 世代間交流は今他区と比べて活発か。

(保健福祉センター職員) 日吉おやこであそぼうランドで世代間交流をやっている。子育て支援センターふるいちばは第三土曜日に開放していて、そこは地域の方のボランティアであけている。地域の方たちが趣味の延長で協力して頂いている。

- ・二つ目に親同士の交流が生まれるというのが有るので、合わせて世代間交流も入れていく。
- ・まだこれから検討していく部分はあるが、こども文化センターに集まっている子どもと、老人いこいの家を利用している方との交流をしてみたらどうか、という実験的なものとして、絵手紙教室を南河原で開いた。まだまだ実験段階だが、お年寄りから子どもたちが作り方を教えてもらう形式は上手くいったという報告はある。
- ・幸区の方は三世代交流とか、第三者ではなくおじいさんおばあさんが見ている方が多いイメージがある。若い方も幸区に住んでみて便利、実家も近いし、子どもも見てもらえるような流れがあると思う。世代間交流というのは他人ではなく、血のつながった人同士の密着度は高いのではないかと思う。そういう方が安心感があって良いのではないか。
- ・幸区が特に三世代で住んでいるというのはデータの言えるか。

(保健福祉センター職員) そういった調査のデータはない。

- ・傾向としては間違いなくあると思うが、幸区の魅力としていえるか。

(事務局) そのファミリーの中では良いサイクルになっていると思うが、一般的に良いニュースなのかというところだと思う。祖父母が孫を育てる、遊んであげられるような支援があれば良い。

- ・寺子屋というのをやっているが、ボランティアがやっている。大半の区はNPO法人などが運営しており、地域住民でやっているのはここだけだと思う。

(保健福祉センター職員) ひだまりなど、地域でやっているのは川崎区にはなかった。

- ・小倉のひだまりと塚越のひだまりで実態が違う。塚越は子育て世代も

来ているが、小倉は基本的に高齢者が多く来ている。

■子どもも大人も、動物や自然に触れあったり、思いっきり遊べるまち幸

・夢見ヶ崎公園という標記ではなく、夢見ヶ崎動物公園にしてはどうか。多摩川の「雄大な」景観というのはちょっとどうか。御幸公園の梅についてはもう少し触れた方が良いのでは。

(事務局) 動物公園の部分に絞れば夢見ヶ崎動物公園という名称になるが、加瀬山全体を含めると夢見ヶ崎公園という名称になっている。動物公園に絞った方が良いか。

・そういう事であれば「動物」はいらぬ。

・周りに対しての知名度としてはどうか。

(事務局) 区民に対するイメージとしては(加瀬山)とついていた方が全体というイメージにつながるかもしれない。若い世代は加瀬山でなく夢見ヶ崎とよぶので、歴史を理解してもらうことも含めてあえて加瀬山をつけるのもよいかもしれない。

■文化と商業が充実したまち幸

・体験の機会という表現、大型の商業施設の所では、区民会議で出してよいかわからないが、首都圏のラゾーナ川崎とする。

・「一流の」という表現がダブっている。

・西口から東口の間には色々ある、交通アクセスが良いの所に「JR 川崎駅の整備も進み」と入れる。

・西口という表現を入れる。

・操車場も魅力の一つだと思う。

(事務局) 三大公園の他にも小さくて魅力的な公園はかなりある。おこさまっぷの中にも書いてあるが、全ての公園を網羅しなくてはいけないので薄くなっている。この中で魅力と言えるような小さな公園があるので必要かもしれない。例えば、新川崎の武蔵小杉寄りの電車が見える公園、新川崎ふれあい公園は男の子に人気で、すぐ隣に電車が通る。そういった特徴的な公園を分かりやすく発信するというのも良いと思う。

・公園の魅力とは何か。孫をよく連れていくが、やはり面白い遊具のあるところは喜ぶ。滑り台とブランコしかないとあまり興味をひかれない。

・子ども受けはしないが小向の獅子舞については観光協会もバックアップしている。小向公園の所には何も書いていない。都会だが文化も残っている。

(2) 魅力発信に向けた今後の調査審議について

●事務局より資料4について説明した。

○資料4により魅力発信に向けた今後の調査審議について確認・共有した。

○区民祭の場で調査を実施することを決定した。

<主な意見>

・概ね良いのではないかと。ただどういう風にやるかがポイントである。例えばブースをつくるなら一人や二人でやるとか、引き出し方が難しい。

(3) 第4回区民会議報告内容等の検討について

●事務局より資料5について説明した。

○資料5により第4回区民会議における部会報告内容について確認・共有した。

○報告者は佐野委員とする。

以上